

8.7 植 物

8.7 植物【簡略化項目】

8.7.1 現況調査

(1) 調査内容

調査の内容は、表8.7-1に示すとおりであり、仙台市宮城野区蒲生に位置し国指定仙台海浜鳥獣保護区である蒲生特別保護地区（以下、「蒲生干潟」という。）における「植物相及び注目すべき種」を把握することとした。

表 8.7-1 調査内容（植物）

項目	調査内容
植物	蒲生干潟における植物相及び注目すべき種

(2) 調査方法

① 既存資料調査

既存資料調査における調査方法は、表8.7-2のとおりとした。

表 8.7-2 調査方法（植物：既存資料調査）

調査内容	調査方法
蒲生干潟における植物相及び注目すべき種	<p>蒲生干潟において植物の現地調査結果が報告されている、「グリーン復興プロジェクトしおかぜ自然環境ログ」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）に掲載されている調査結果報告等を収集し、各既存資料に掲載されている出現種を整理した上で、注目すべき種を選定した。また、注目すべき種については、生育環境や種の特長等について把握した。</p> <p>蒲生干潟では、東日本大震災の影響により環境に変化が生じた可能性が考えられることから、震災後に蒲生干潟で現地調査が実施された結果が掲載されている資料として、表8.7-3に示す既存資料を調査対象とした。</p> <p>また、注目すべき種の選定基準は表8.7-4・5のとおりとした。</p>

表 8.7-3 収集した既存資料（植物）

資料番号	収集した既存資料	調査概要
①	「平成25年度東北地方太平洋沿岸地域植生・湿地変化状況等調査 調査報告書」（平成26年 環境省自然環境局生物多様性センター）	東日本大震災の影響が大きかったと考えられる地区を対象として、平成25年度に実施された現地調査結果が掲載されている。
②	「平成26年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」（平成27年 環境省自然環境局生物多様性センター）	東日本大震災の影響が大きかったと考えられる地区を対象として、平成26年度に実施された現地調査結果が掲載されている。
③	「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」（平成28年 環境省自然環境局生物多様性センター）	東日本大震災の影響が大きかったと考えられる地区を対象として、平成27年度に実施された現地調査結果が掲載されている。
④	「平成23年度 東日本大震災による自然公園等への影響調査業務報告書 上巻」（平成23年 株式会社プレック研究所）	東北地方太平洋沿岸（青森県八戸市から福島県相馬市）の自然公園等を対象として、東日本大震災による自然環境等への影響を把握するために実施した現地調査結果が掲載されている。
⑤	「自然豊かな蒲生干潟 継続観察プロジェクト 仙台市科学館蒲生調査レポート」（平成30年11月閲覧、スリーエム仙台市科学館HP）	蒲生干潟における継続観察の結果が掲載されている。
⑥	「高砂市民センター 仙台・蒲生の自然」（平成30年11月閲覧、仙台市市民センターHP）	蒲生干潟における海岸風景及び観察した動植物が掲載されている。

表 8.7-4 注目すべき動植物種の選定基準（植物）

判断基準	記号等	説明	
レンドデータ等	文化財保護法	特天	「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）における特別天然記念物
		天	「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）における天然記念物
	種の保存法	国内	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）における国内希少野生動植物
		国際	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）における国際希少野生動植物
	環境省RL2018 「環境省レッドリスト2018」（環境省、平成30年）掲載種	EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR	絶滅危惧ⅠA類
		EN	絶滅危惧ⅠB類
		VU	絶滅危惧Ⅱ類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	宮城県RDB 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成28年）掲載種	EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類
		VU	絶滅危惧Ⅱ類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
要		要注目種	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種。あるいは生息地・生育地がごく限られている種。
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となる種。
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。
		4	1、2、3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている種など。）。
	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
		EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
		A	現在ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。
		B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。
		C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。
		+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。
		/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。
	・	判断に資する情報がない。	
	環境指標種	○	仙台市の各環境分類における環境を指標する種（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標。）。

〔「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年、仙台市）より作成〕

表 8.7-5 注目すべき種の選定基準における減少種の地域区分（植物）

No.	地域区分
1	山地地域
2	西部丘陵地・田園地域
3	市街地地域
4	東部田園地域
5	海浜地域（後背の樹林も含む）

注：計画地は、「市街地地域」に位置する。

〔「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年、仙台市）
「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画2011-2020（改定版）」（平成28年3月、仙台市）より作成〕

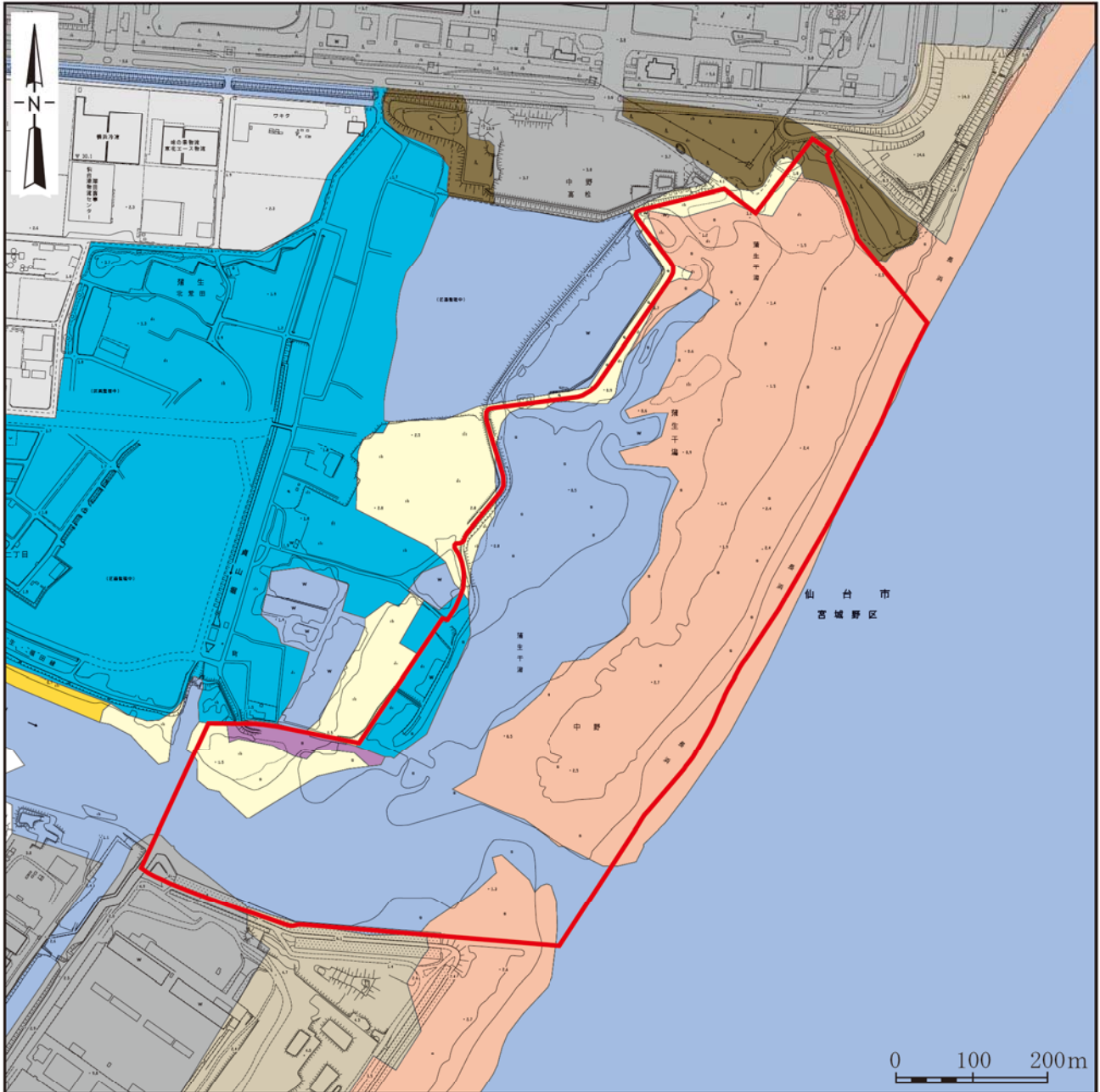
(3) 調査地域及び調査地点

① 既存資料調査

ア. 調査地域等

調査地域は蒲生干潟とし、図8.7-1に示す範囲を基本とした。

蒲生干潟の植生は、図8.7-1のとおりである。蒲生干潟の植生は、干潟環境の自然裸地及び開放水域が大半を占めているが、北側の一部に樹林環境のクロマツ植林、七北田川河口の北側の一部に河辺・湿地植生のヨシクラス及び塩沼地植生、草地環境の路傍・空地雑草群落が分布しており、多様な植生となっている。



凡例

調査地域（蒲生特別保護地区）

植生

- ススキ群団 (V)
- ヨシクラス
- 塩沼地植生
- クロマツ植林
- 路傍・空地雑草群落
- 市街地
- 工場地帯
- 造成地
- 開放水域
- 自然裸地

図 8.7-1 調査地域（蒲生特別保護地区）

(4) 調査期間等

調査対象とする既存資料は、東日本大震災発生（平成23年3月11日）以降に現地調査が実施されたものとした。

各既存資料における調査期日は、表8.7-6のとおりである。

表 8.7-6 収集した既存資料（植物）

資料番号	既存資料名	調査期日
①	「平成25年度東北地方太平洋沿岸地域植生・湿地変化状況等調査 調査報告書」	平成25年11月11日
②	「平成26年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」	平成26年6月26日（夏季調査） 平成26年8月24日、9月24日（秋季調査）
③	「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」	平成27年7月6日（夏季調査） 平成27年9月25日（秋季調査）
④	「平成23年度 東日本大震災による自然公園等への影響調査業務報告書 上巻」	平成23年6月29日、7月22日、8月19日、9月16日、10月14日、11月10日
⑤	「自然豊かな蒲生干潟 継続観察プロジェクト 仙台市科学館蒲生調査レポート」	平成23年4月13日に初回調査を実施以降、毎月調査を実施
⑥	「高砂市民センター 仙台・蒲生の自然」	平成28年11月13日、12月5日 平成29年1月22日、2月19日、3月12日、4月23日、4月29日、5月4日、5月12日、6月18日、7月9日、7月30日、8月20日、8月24日

(5) 調査結果

① 既存資料調査

ア. 植物相

既存資料調査の結果は表8.7-7・8のとおりであり、79科370種が確認された。

なお、収集した既存資料には、図8.7-1に示す調査地域周辺で確認された種も含まれる可能性が考えられるが、蒲生干潟における植生の多様性を勘案し、既存資料に示される確認種の全てについて蒲生干潟で確認されたものと見なした。

表 8.7-7 植物の確認種数（既存資料調査結果）

分類区分				科数	種数
シダ植物門				1	1
種子植物門	裸子植物亜門			1	2
	被子植物亜門	双子葉植物綱	離弁花類亜綱	46	165
			合弁花類亜綱	17	89
		単子葉植物綱		14	113
合計				79	370

表 8.7-8(1) 植物の確認種（既存資料調査結果）

No.	分類群	科名	種名	既存資料					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	シダ植物	トクサ	スギナ	○	○	○			
2	裸子植物	マツ	アカマツ	○	○	○		○	
3			クロマツ	○		○		○	
4	離弁花類	クルミ	オニグルミ			○			
5		ヤナギ	バッコヤナギ	○					
6			イヌコリヤナギ			○			
7			シロヤナギ	○	○	○			
8			オオタチヤナギ			○			
9			オノエヤナギ	○	○				
10			タチヤナギ		○	○			
11			カバノキ	ハンノキ					○
12		ブナ	アラカシ					○	
13			コナラ	○	○	○			
14		ニレ	エゾエノキ	○					
15			エノキ		○				
16			ケヤキ		○				
17		クワ	カナムグラ	○	○				
18			カラハナソウ	○	○	○			
19			ヤマグワ		○	○			
20		タデ	ヤナギタデ	○		○			
21			オオイヌタデ	○	○	○			
22			イヌタデ	○	○	○			
23			イシミカワ		○				
24			アキノウナギツカミ			○			
25			ミゾソバ	○					
26			ミチヤナギ	○	○	○			
27			イタドリ	○					
28			ケイタドリ			○			
29			ヒメスイバ			○			
30			ナガバギシギシ			○			
31			ギシギシ		○	○			
32			エゾノギシギシ	○					
33		ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	○	○				
34		ハマミズナ	ツルナ				○		
35		スベリヒユ	スベリヒユ			○			
36	ナデシコ	オランダミミナグサ	○		○				
37		ミミナグサ		○					
38		ツメクサ		○	○				
39		ムシトリナデシコ		○	○				
40		ノミノフスマ		○	○				
41		ウシハコベ			○				
42		コハコベ	○	○					
43		ミドリハコベ			○				
44		イヌコハコベ		○					
45		アカザ	ホコガタアカザ		○	○			
46			ハマアカザ		○	○	○		
47			マルバアカザ			○			
48			シロザ	○	○	○			
49	ケアリタソウ				○				
50	コアカザ				○				

表 8.7-8(2) 植物の確認種（既存資料調査結果）

No.	分類群	科名	種名	既存資料					
				①	②	③	④	⑤	⑥
51	離弁花類	アカザ	ウラジロアカザ		○	○			
52			オカヒジキ		○	○	○		
53			ハママツナ	○	○	○	○		○
54		モクレン	コブシ			○			
55		クスノキ	シロダモ	○	○	○		○	
56		キンボウゲ	ケキツネノボタン			○			
57			タガラシ			○			
58		メギ	ヒイラギナンテン			○			
59			ナンテン		○	○			
60		アケビ	アケビ	○	○	○			
61			ミツバアケビ	○	○	○			
62			ムベ			○			
63		ツツラフジ	アオツツラフジ			○			
64		スイレン	ハス	○	○	○			
65		ドクダミ	ドクダミ	○		○			
66			ハンゲショウ	○					
67		ツバキ	ヤブツバキ		○				
68			ヒサカキ					○	
69			モッコク			○			
70		アブラナ	ハマハタザオ					○	
71			セイヨウカラシナ		○				
72			オニハマダイコン		○	○	○		○
73			ナズナ	○	○				
74			タネツケバナ		○	○			
75			マメグンバイナズナ		○	○			
76			イヌガラシ	○		○			
77			スカシタゴボウ	○	○	○			
78		ベンケイソウ	コモチマンネングサ		○				
79			ツルマンネングサ			○			
80		ユキノシタ	タコノアシ		○				
81		トベラ	トベラ			○		○	
82		バラ	キンミズヒキ			○			
83			ベニシタン			○			
84			ヘビイチゴ		○	○			
85			ズミ	○	○	○			
86			オヘビイチゴ			○			
87			カマツカ		○	○			
88			ウワミズザクラ	○	○	○			
89			ヤマザクラ	○	○	○			
90			オオシマザクラ	○					
91			エゾヤマザクラ		○				
92			カスミザクラ	○	○	○			
93			シャリンバイ			○			
94			ノイバラ		○	○			
95			ハマナス	○	○	○	○	○	○
96			テリハノイバラ	○	○	○		○	○
97			カジイチゴ				○		
98			マメ	クサネム		○	○		
99		ネムノキ			○	○			
100		イタチハギ			○	○			○

表 8.7-8(3) 植物の確認種 (既存資料調査結果)

No.	分類群	科名	種名	既存資料					
				①	②	③	④	⑤	⑥
101	離弁花類	マメ	ヤブマメ	○	○				
102			エニシダ			○			
103			ヌスビトハギ			○			
104			ダイズ	○					
105			ツルマメ	○	○	○			
106			コマツナギ		○	○			
107			マルバヤハズソウ		○	○			
108			ヤハズソウ		○	○			
109			ハマエンドウ	○	○	○		○	○
110			メドハギ	○	○	○			
111			ハイメドハギ			○			
112			ネコハギ		○	○			
113			コメツブウマゴヤシ			○			
114			クズ	○	○	○			
115			ハリエンジュ	○	○	○		○	
116			クスダマツメクサ		○	○			
117			コメツブツメクサ			○			
118			ムラサキツメクサ		○	○			
119			シロツメクサ	○	○	○			
120			ヤハズエンドウ		○	○			
121			フジ	○	○	○			
122	カタバミ	カタバミ		○	○				
123		アカカタバミ			○				
124		ムラサキカタバミ	○						
125		オッタチカタバミ			○				
126	トウダイグサ	エノキグサ	○	○	○				
127		コニシキソウ	○		○				
128	ミカン	サンショウ			○				
129		イヌザンショウ		○					
130	ドクウツギ	ドクウツギ	○	○	○				
131	ウルシ	ツタウルシ	○	○	○				
132		ヌルデ		○	○				
133		ヤマウルシ	○	○	○				
134	モチノキ	イヌツゲ	○	○	○				
135		ウメモドキ	○	○	○				
136	ニシキギ	ツルウメモドキ	○	○	○				
137		ニシキギ		○					
138		コマユミ	○	○	○				
139		マサキ		○					
140		ツリバナ			○				
141		マユミ			○				
142	クロウメモドキ	クマヤナギ		○	○				
143	ブドウ	ノブドウ	○	○	○				
144		ヤブガラシ	○		○				
145		ツタ		○	○				
146		エビヅル		○	○				
147	グミ	アキグミ	○						
148	スミレ	ヒメスミレ			○				
149	ミゾハコベ	ミゾハコベ			○				
150	ウリ	アレチウリ		○	○	○			

表 8.7-8(4) 植物の確認種（既存資料調査結果）

No.	分類群	科名	種名	既存資料					
				①	②	③	④	⑤	⑥
151	離弁花類	ミソハギ	エゾミソハギ		○				
152			キカシグサ			○			
153		ヒシ	ヒシ			○	○		
154		アカバナ	チョウジタデ			○	○		
155			メマツヨイグサ	○	○	○			
156			コマツヨイグサ	○	○	○			
157			ユウゲショウ				○		
158			ヒルザキツキミソウ				○		
159		アリノトウグサ	アリノトウグサ	○	○				
160		ウコギ	ウド	○	○	○			
161			タラノキ			○	○		
162			ヤツデ	○	○	○			
163			キツタ	○	○	○			
164		セリ	ハマボウフウ	○	○				
165			オオチドメ	○					
166			セリ			○			
167			ヤブジラミ			○	○		
168			オヤブジラミ				○		
169	合弁花類	ツツジ	ハナヒリノキ			○			
170			レンゲツツジ	○	○	○			
171			ホツツジ	○	○	○			
172			ウスノキ			○	○		
173			アクシバ	○					
174			ナツハゼ			○	○		
175			ヤブコウジ	ヤブコウジ	○	○	○		
176		サクラソウ	オカトラノオ			○			
177		モクセイ	ネズミモチ			○	○		
178			イボタノキ				○		
179			オオバイボタ				○		
180			ヒイラギ	○	○	○			
181		ミツガシワ	ガガブタ	○	○				
182		ガガイモ	ガガイモ			○	○		
183		アカネ	ヤエムグラ				○		
184			ヘクソカズラ				○	○	
185			アカネ					○	
186		ヒルガオ	ヒルガオ	○	○				
187			ハマヒルガオ	○	○	○			○
188		ムラサキ	ハナイバナ	○					
189			キュウリグサ			○	○		
190		クマツヅラ	ムラサキシキブ	○	○	○			
191		シソ	カキドオシ			○			
192			ヒメオドリコソウ	○					
193			ヒメジソ	○			○		
194			イヌコウジュ				○		
195			ヒメナミキ					○	
196			ナス	クコ			○		
197		ゴマノハグサ	ウンラン	○	○	○			
198			ウリクサ				○		
199	アメリカアゼナ						○		
200	アゼナ					○	○		

表 8.7-8(5) 植物の確認種（既存資料調査結果）

No.	分類群	科名	種名	既存資料					
				①	②	③	④	⑤	⑥
201	合弁花類	ゴマノハグサ	サギゴケ		○				
202			トキワハゼ			○			
203			タチイヌノフグリ		○	○			
204			オオイヌノフグリ	○		○			
205		オオバコ	オオバコ	○	○	○			
206			ヘラオオバコ	○	○	○			
207		スイカズラ	スイカズラ	○	○	○			○
208			ニワトコ	○					
209			ガマズミ	○	○	○			
210			ヤブデマリ			○			
211	キキョウ	ミゾカクシ	○						
212	キク	キッコウハグマ		○	○				
213		ブタクサ		○	○				
214		オオブタクサ	○	○	○				
215		カワラヨモギ			○				
216		ヨモギ	○	○	○				
217		シロヨメナ			○				
218		ノコンギク	○		○				
219		ヒロハホウキギク			○				
220		ホウキギク	○	○	○				
221		コバノセンダングサ			○				
222		アメリカセンダングサ	○	○	○				
223		コセンダングサ	○	○	○				
224		タウコギ			○	○			
225		トキンソウ			○				
226		ナンブアザミ			○				
227		アメリカオニアザミ			○				
228		オオアレチノギク	○	○	○				
229		オオキンケイギク			○				
230		コスモス	○	○	○				
231		アメリカタカサブロウ			○	○			
232		ダントボロギク			○				
233		ヒメムカシヨモギ	○	○	○				
234		ハルジオン			○				
235		ハキダメギク	○	○	○				
236		ハハコグサ			○	○			
237		ブタナ			○				
238		カセンソウ	○						
239		オオヂシバリ			○				
240		ハマニガナ	○	○	○			○	
241		ユウガギク	○						
242		アキノノゲシ	○	○	○				
243		トゲチシャ			○				
244		ヤブタバコ			○				
245		フキ	○	○					
246		ノボロギク	○	○	○				
247		セイタカアワダチソウ	○	○	○				
248		アキノキリンソウ			○				
249		オニノゲシ	○	○	○				
250	ハチジョウナ			○	○				

表 8.7-8(6) 植物の確認種 (既存資料調査結果)

No.	分類群	科名	種名	既存資料						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
251	合弁花類	キク	ノゲシ	○	○	○				
252			ヒメジョオン	○	○	○				
253			オヤマボクチ		○					
254			セイヨウタンポポ	○	○	○				
255			イガオナモミ		○					
256			オオオナモミ	○	○	○				
257			オニタビラコ			○				
258	単子葉植物	オモダカ	オモダカ		○					
259		ユリ	ヤマユリ			○				
260			ヒメヤブラン			○				
261			ジャノヒゲ			○				
262			オオバジャノヒゲ			○	○			
263			オモト			○				
264			サルトリイバラ	○	○	○				
265			ヤマノイモ	ナガイモ			○			
266		ヤマノイモ				○				
267		ミズアオイ	コナギ			○				
268		アヤメ	ノハナショウブ			○				
269			ヒメヒオウギズイセン			○	○			
270		イグサ	イ	○	○	○				
271			タチコウガイゼキショウ	○	○					
272			クサイ			○	○			
273			イヌイ	○						
274			スズメノヤリ				○			
275		ツユクサ	ツユクサ	○	○	○				
276			イボクサ	○	○	○				
277		イネ	アオカモジグサ			○				
278			カモジグサ			○	○			
279			コヌカグサ			○	○			
280			ハイコヌカグサ				○			
281			スズメノテッポウ				○	○		
282			メリケンカルカヤ	○						
283			コブナグサ				○			
284			トダシバ				○			
285			イヌムギ				○	○		
286			スズメノチャヒキ					○		
287			キツネガヤ					○		
288			カラスノチャヒキ					○		
289			ノガリヤス					○		
290			ヤマアワ					○		
291	ギョウギシバ		○	○	○					
292	カモガヤ					○	○			
293	メヒシバ		○	○	○					
294	アキメヒシバ					○	○			
295	イヌビエ		○	○	○					
296	ケイヌビエ		○	○	○					
297	タイヌビエ						○			
298	オヒシバ		○	○	○					
299	ハマニンニク		○	○	○			○		
300	シナダレスズメガヤ	○								

表 8.7-8(7) 植物の確認種（既存資料調査結果）

No.	分類群	科名	種名	既存資料					
				①	②	③	④	⑤	⑥
301	単子葉植物	イネ	カゼクサ	○	○	○			
302			ニワホコリ	○		○			
303			オオニワホコリ			○			
304			コスズメガヤ		○	○			
305			オニウシノケグサ	○	○	○			
306			ウシノシッペイ	○		○			
307			チガヤ	○	○	○			
308			チゴザサ		○				
309			ケカモノハシ	○	○	○	○		○
310			カモノハシ		○				
311			ネズミムギ		○	○			
312			オギ	○	○	○			
313			ススキ	○	○	○			
314			ケチヂミザサ			○			
315			オオクサキビ		○	○			
316			スズメノヒエ		○	○			
317			チカラシバ		○				
318			アイアシ		○	○			
319			クサヨシ	○	○	○			
320			ヨシ	○	○	○		○	
321			マダケ			○			
322			アズマネザサ	○		○		○	
323			スズメノカタビラ		○	○			
324			ナガハグサ		○				
325			オオスズメノカタビラ			○			
326			ヒエガエリ	○	○	○			
327			ヌメリグサ		○				
328			アキノエノコログサ	○	○	○			
329			キンエノコロ	○	○	○			
330			エノコログサ		○	○			
331			ムラサキエノコロ		○				
332			ナギナタガヤ		○	○			
333			マコモ	○	○	○			
334			シバ		○	○			
335			オニシバ			○		○	
336	ヤシ	シュロ		○	○				
337	ウキクサ	アオウキクサ		○	○				
338		ウキクサ			○				
339	ミクリ	ミクリ		○	○				
340	ガマ	ヒメガマ	○	○	○				
341		ガマ		○					
342		コガマ	○	○					
343		Typha属の1種			○				
344	カヤツリグサ	ウキヤガラ		○					
345		ハタガヤ			○				
346		エナシヒゴクサ			○				
347		カサスゲ	○						
348		ヒゴクサ		○					
349		コウボウムギ	○	○	○		○		
350		ヒメゴウン		○					

表 8. 7-8(8) 植物の確認種（既存資料調査結果）

No.	分類群	科名	種名	既存資料					
				①	②	③	④	⑤	⑥
351	単子葉植物	カヤツリグサ	コウボウシバ	○	○	○			○
352			シオクグ	○	○	○			
353			アゼスゲ		○				
354			ヒメクグ	○	○	○			
355			タマガヤツリ	○	○	○			
356			ヒナガヤツリ			○			
357			コゴメガヤツリ	○	○	○			
358			カヤツリグサ		○	○			
359			アオガヤツリ		○	○			
360			ウシクグ			○			
361			イガガヤツリ		○	○	○		
362			カワラスガナ		○	○			
363			ミズガヤツリ		○				
364			マツバイ		○				
365			ハリイ			○			
366			テンツキ		○				
367			ホタルイ		○				
368			イヌホタルイ				○		
369			サンカクイ				○		
370			ラン		ネジバナ			○	
計	5類	79科	370種	148種	236種	282種	10種	17種	13種

注：1. 既存資料の①～⑥は、表8. 7-3の資料番号に対応する。

2. 種名は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

イ. 注目すべき種

確認された種のうち、表8. 7-4・5に示した選定基準に該当する注目すべき種は、表8. 7-9に示す32科51種であった。

また、注目すべき種の特性及び確認状況は、表8. 7-10のとおりである。

表 8.7-9 植物の注目すべき種（既存資料調査結果）

No.	科名	種名	調査時期			注目すべき種の選定基準														
			春季	夏季	秋季	文化財保護法	種の保存法	環境省 RL2018	宮城県 RDB	学術上重要種	仙台市 減少種					環境指標種				
											1	2	3	4	5					
1	クルミ	オニグルミ			●								●	B	B	B	●	○		
2	カバノキ	ハンノキ	●									1,4	●	C	●	B	C	○		
3	ブナ	アラカシ	●								要	1,2	●	C	●	●	●			
4	ニレ	エノキ										4	●	B	B	B	●			
5		ケヤキ											C	C	B	B	●	○		
6	タデ	イヌタデ		●	●								●	●	●	●	●	○		
7		ミゾソバ			●								●	C	B	C	●	○		
8	アカザ	ハママツナ	●	●	●						NT	2	●	●	●	●	B	○		
9	クスノキ	シロダモ	●	●	●							2	●	+	●	+	+	○		
10	ドクダミ	ハンゲショウ			●							VU	●	●	●	●	B			
11	ツバキ	ヤブツバキ											●	B	B	B	B	○		
12	アブラナ	ナズナ			●								●	B	B	B	●	○		
13	ユキノシタ	タコノアシ									NT		●	B	●	C	●			
14	バラ	カスミザクラ		●	●								●	C	●	●	●	○		
15		ハマナス	●	●	●						NT	4	●	●	●	●	B	○		
16		カジイチゴ		●								1,2	●	●	●	C	C			
17	モチノキ	イヌツゲ		●	●								●	C	●	●	C			
18	ヒシ	ヒシ		●	●								●	B	●	B	●	○		
19	セリ	ハマボウフウ			●							1	●	●	●	●	C			
20	ツツジ	ナツハゼ		●	●								●	C	●	●	●			
21	ヤブコウジ	ヤブコウジ		●	●								●	●	●	●	●	○		
22	モクセイ	イボタノキ		●	●								●	B	●	●	●	○		
23	ミツガシワ	ガガバタ			●						NT	CR+EN								
24	ヒルガオ	ハマヒルガオ	●	●	●								●	●	●	●	B	○		
25	ゴマノハグサ	ウンラン		●	●								●	●	●	●	C			
26		サギゴケ												●	C	●	C	●	○	
27	オオバコ	オオバコ		●	●								●	●	●	●	●	○		
28	キク	キッコウハグマ		●	●								●	B	●	●	●	○		
29		アキノキリンソウ		●	●									●	C	●	●	●	○	
30	オモダカ	オモダカ											●	C	●	B	●	○		
31	ユリ	ヒメヤブラン		●									●	C	●	●	+	○		
32		オオバジャノヒゲ		●	●									●	B	●	●	C		
33	ミズアオイ	コナギ		●	●								●	●	●	C	●	○		
34	アヤメ	ノハナショウブ										1	●	C	●	●	●	○		
35	イネ	ヤマアワ		●									●	B	●	●	B			
36		メヒシバ		●	●									●	●	●	●	●	○	
37		ハマニンニク		●	●								1,4	●	●	●	●	C	○	
38		カゼクサ			●									●	B	C	C	●	○	
39		ケカモノハシ		●	●									●	●	●	●	B	○	
40		カモノハシ											1	●	●	●	●	B		
41		オギ			●	●								●	C	C	C	C	○	
42		アイアシ			●	●							NT	1	●	●	●	●	C	○
43		ヨシ		●	●	●								●	C	C	C	C	○	
44		マコモ			●	●								●	B	●	B	●	○	
45		シバ			●	●								●	B	B	B	●	○	
46	ミクリ	ミクリ		●	●						NT	NT	1	●	B	●	B	●	○	
47	ガマ	ヒメガマ		●	●								●	C	C	C	●			
48		ガマ												●	C	C	C	●	○	
49	カヤツリグサ	コウボウムギ	●	●	●								●	●	●	●	B	○		
50		サンカクイ			●								●	B	●	B	●			
51	ラン	ネジバナ		●									●	B	●	B	●	○		
計	32科	51種	8種	32種	36種	0種	0種	3種	7種	13種	50種	50種	50種	50種	50種	50種	36種			

注：1. 種名は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。
 2. 注目すべき種の選定基準の区分は表8.7-4・5のとおりである。

表 8.7-10(1) 注目すべき種の特性及び確認状況（オニグルミ）

種名		オニグルミ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法		—	
	環境省RL	—			宮城県RDB		—	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	・	B	B	B	・	○		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道・本州・四国・九州。						
	仙台市内の分布	青葉山、川平、芋沢川前、井土、太白山、馬場大滝、茂庭など。						
	形態	クルミ科クルミ属の落葉高木。高さ30m。太い枝がまばらにでて、樹形は円形となる。樹皮は灰色で、若木ではなめらかだが、成木では縦に深く裂ける。葉は互生し、大きな羽状複葉である。雌雄同株。和名は、果実にしわをもつことを鬼にたとえたもの。						
	生育環境	川沿いの湿気の多い所に生育。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
③	平成27年度の秋季（9月）調査時に生育を確認した。				—	—		
合計							—	

表 8.7-10(2) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハンノキ）

種名		ハンノキ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法		—	
	環境省RL	—			宮城県RDB		—	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	1,4	・	C	・	B	C	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道・本州・四国・九州・琉球。						
	仙台市内の分布	青葉山、葛岡墓園、サイカチ沼、岡田、蒲生、宮沢橋下流など。						
	形態	カバノキ科ハンノキ属の落葉高木。幹は高さ15～20m。葉は長さ1～3.5cmの柄があり、卵状長楕円形、長楕円形、倒卵状長楕円形、長さ5～13cm、幅2～5.5cm、鋭尖頭、基部はくさび形～広いくさび形、ふつう高さ1mm以下の凸状の不整鋸歯があり、やや硬質、表面は無毛、側脈は7～9対あって先端は多少湾曲し、裏面は側脈が隆起し、はじめ多少とも有毛だが、のちほとんど無毛、脈腋に少し毛叢がある。						
	生育環境	水湿ある低地、湿原に生育。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
⑤	平成23年度の春季（4月）調査時に確認した。				—	—		
合計							—	

表 8.7-10(3) 注目すべき種の特性及び確認状況（アラカシ）

種名		アラカシ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法	—	
	環境省RL	—			宮城県RDB	要	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
1,2	・	C	・	・	・		
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州(宮城県・石川県以西)・四国・九州。					
	仙台市内の分布	亀岡など。					
	形態	ブナ科コナラ属の常緑高木。幹は高さ18m、径60cmに達する。葉は互生し、長さ1.5～2.5cmの柄があり、革質で、葉身は倒卵状長楕円形または長楕円形、先端は鋭くとがり、基部は広いくさび形、上半分には大型の鋸歯がある。表面は光沢があり、裏面は絹毛が密生して灰白色。花期は4～5月、雌雄異株。堅果は卵円形で、長さ1.5～2cm、年内に熟す。					
	生育環境	山麓に生育。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑤	平成23年度の春季（4月）調査時に確認した。			—	—		
合計					—		

表 8.7-10(4) 注目すべき種の特性及び確認状況（エノキ）

種名		エノキ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法	—	
	環境省RL	—			宮城県RDB	—	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
4	・	B	B	B	・		
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州・四国・九州。					
	仙台市内の分布	青葉山、岡田、若林、藤塚、二ツ沢、西多賀、寺岡など。					
	形態	ニレ科エノキ属の落葉高木。高さ20m、径1mに達する。葉は2列互生し、有柄。葉身は広楕円形または広卵状楕円形、長さ4～9（～13）cm、頂部は急に鋭形となり、先端は鋭尖形、基部は広いくさび形、左右不対照。基部を除き小波状の鈍鋸歯があるか、ときに上方にのみ不明瞭な微細鋸歯があることもあり、またはほとんど全縁となる。花は4～5月、核果は球形、9月ごろ紅褐色に熟し、短い柄がある。					
	生育環境	沿海地などの向陽適潤の地に生育。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。			—	—		
合計					—		

表 8.7-10(5) 注目すべき種の特性及び確認状況（ケヤキ）

種名		ケヤキ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法	—
	環境省RL	—			宮城県RDB	—
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	C	C	B	B	・	○
種の特 性 (※)	全国分布	本州・四国・九州。				
	仙台市内の分布	牛越橋上流、上愛子、井土、上の山、二口、茂庭など。				
	形態	ニレ科ケヤキ属の落葉高木。高さ20～30m。樹皮は若いとき、灰褐色でなめらかだが、老木になるとコルク質が発達して、独特の雲状の斑紋が入る。葉は互生し、柄があり、葉身は卵形または卵状披針形で枝に2列に並ぶが、左右非対称となりやすい。へりには鋭い鋸歯がある。花は4月、新葉とともに開き、単性で雌雄同株。核果は不齊な扁球形をなし、稜角があり、10月に灰黒色に熟す。				
	生育環境	温暖な地域の肥沃地や溪畔に生育。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。			—	—	
合計					—	

表 8.7-10(6) 注目すべき種の特性及び確認状況（イヌタデ）

種名		イヌタデ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法	—
	環境省RL	—			宮城県RDB	—
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	・	・	・	・	・	○
種の特 性 (※)	全国分布	北海道～琉球。				
	仙台市内の分布	青葉の森、台原森林公園、広瀬川中河原緑地、大年寺山、秋保馬場、将監沼風致公園など。				
	形態	タデ科イヌタデ属の一年生草本。茎の下部は地をはって分枝し、上部は直立し、無毛、高さ20～50cmになる。葉には短い柄があり、葉身は広披針形、両端は鋭形、表面の縁の付近や裏面の脈上に毛があり、長さ3～8cm、幅1～1.5cm。托葉鞘は筒状で、外面にあら毛があり、縁毛は長い。花期は6～10月。総状花序は密に花をつけ、穂状をなし、長さ1～5cm。萼は紅色まれに白色、5深裂し、長さ1.5～2mm。				
	生育環境	道ばたや原野に生育。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（11月）調査時に耕作農地、非耕作農地で生育を確認した。			—	—	
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。			—	—	
③	平成27年度の夏季（9月）及び秋季（9月）調査時に生育を確認した。			—	—	
合計					—	

表 8.7-10(7) 注目すべき種の特性及び確認状況（ミゾソバ）

種名		ミゾソバ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法	—
	環境省RL	—			宮城県RDB	—
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	・	C	B	C	・	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	青葉山、台原森林公園、水の森、蒲生、藤塚、野草園、大年寺山、旗立、茂庭、秋保町馬場、秋保大滝植物園など。				
	形態	タデ科イヌタデ属の一年生草本。高さ30～100cm。葉は有柄、卵状ほこ形で、先は鋭尖形、基部は広心形、耳部は卵形、長さ3～12cm、幅2～3cm。托葉鞘は短い筒状で、毛があり、縁はときに葉状となる。花期は7～10月。総状花序は密な頭状をなして頂生する。萼は5裂し、下部は白色、上部は紅紫色、長さ4～7mm、裂片は楕円形、先は円形。そう果は卵状3稜形、褐色で長さ約3～4mm。				
	生育環境	水湿地に生育。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（11月）調査時に耕作農地で生育を確認した。			—	—	
合計					—	

表 8.7-10(8) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハママツナ）

種名		ハママツナ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法	—
	環境省RL	—			宮城県RDB	NT
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
2	・	・	・	・	B	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州（宮城県以南）～九州。				
	仙台市内の分布	蒲生、井土浦など。				
	形態	アカザ科マツナ属の一年生草本。高さ20～60cm。葉は直立し、無毛で、多くの枝を張る。葉は細く長線形、先はふつう鋭形、長さ1～4cm、幅1～2mm。花は葉腋に1～5個、かたまつてつく。萼は5深裂し、緑色で、裂片は卵形、背部の中央に隆状がある。種子はレンズ形か円盤型、黒色で光沢がある。				
	生育環境	海辺の砂地に生育。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（11月）調査時に干潟で生育を確認した。			—	—	
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。			—	—	
③	平成27年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生育を確認した。			—	—	
④	平成23年度の夏季（8月）調査時に生育を確認した。			—	—	
⑥	平成28年度の春季（3月）調査時に砂浜で生育を確認した。			—	—	
合計					—	

表 8.7-10(9) 注目すべき種の特性及び確認状況（シロダモ）

種名		シロダモ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
2	.	+	.	+	+	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州・四国・九州・琉球。					
	仙台市内の分布	台原森林公園、水の森、蒲生、藤塚、荒浜、野草園、向山、富田、長命館公園、鷺倉など。					
	形態	クスノキ科シロダモ属の常緑中高木。小枝は緑色、無毛。若い枝は黄褐色の毛をしく。葉は長楕円形で細長く、互生。枝の先に車輪上に集まり、大型で長さ8~18cm、幅4~8cm。葉柄は長く、長さ2~3cm。花序は枝の下方、葉のない部分から上方の葉の間にかけて腋生する芽に数個つく。花は10~11月に咲き、淡黄色で散形につく。果実は楕円状球形、長さ12~15mmで、大きく、翌年の秋に赤熟する。					
	生育環境	暖温帯の樹林に生育。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（11月）調査時に被災樹林で生育を確認した。			-	-		
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生育を確認した。			-	-		
⑤	平成23年度の春季（4月）調査時に確認した。			-	-		
合計					-		

表 8.7-10(10) 注目すべき種の特性及び確認状況（ハンゲショウ）

種名		ハンゲショウ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	VU	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	B		
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州~琉球。					
	仙台市内の分布	蒲生での確認がある。					
	形態	ドクダミ科ハンゲショウ属の多年草。地下茎は太くて横にはい、茎は高さ50~100cmになる。葉は卵形、基部は心形で、長さ5~15cm。花期は6~8月。花穂は長さ10~15cm、多数の花をつけ、基部の方から順番に咲き、花は2~3mmの小花柄がある。果実には毛がない。					
	生育環境	低地の水辺や湿地に生育。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（11月）調査時に開放水域で生育を確認した。			-	-		
合計					-		

表 8.7-10(11) 注目すべき種の特性及び確認状況（ヤブツバキ）

種名		ヤブツバキ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法		—
	環境省RL	—			宮城県RDB		—
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	・	B	B	B	B	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州(青森以南)・四国・九州・琉球。					
	仙台市内の分布	青葉山、藤塚、蒲生、杏形、茂庭など。					
	形態	ツバキ科ツバキ属の常緑高木。高さ15mに達する。葉は互生し、無毛。表面は濃緑色で光沢があり、裏面は淡緑色で、幼時にあった白色の長伏毛が落ちた後にコルク質の小さいぼが残る。葉身は革質、楕円形、長楕円形、卵状楕円形で鋭尖頭、基部は鋭形またはほぼ円形、長さ4～8cm、まばらな鈍鋸歯がある。花期は11～12月または2～4月。冬芽の最下すなわち第一鱗片(まれにその真上の鱗片)に腋生し、単生まれに双生状となる。					
	生育環境	山地に生育。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。				—	—	
合計							—

表 8.7-10(12) 注目すべき種の特性及び確認状況（ナズナ）

種名		ナズナ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法		—
	環境省RL	—			宮城県RDB		—
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	・	B	B	B	・	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本全土。					
	仙台市内の分布	青葉山、台原森林公園、藩山、岡田中、日の出町公園、蒲生、井土、大年寺山、馬場滝原、水の森公園、北中山、天神沢、松陵など。					
	形態	アブラナ科ナズナ属の越年生草本。根は円柱状。根出葉は頭大羽状に分裂し、形や大きさに変化が多く、茎葉は基部が矢じり形で茎を抱く。茎は直立して枝をわけ、高さ10～50cm。花期は3～6月。総状花序はまばらに花をつける。萼片は長楕円状卵形、長さ1～2.5mm、外面に単毛がある。花弁は白色、卵形、長さ1.5～3.5mm、幅1～1.3mm。種子は広卵形で平たく、黄褐色。					
	生育環境	平地に多く、道ばたなどに生育。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（11月）調査時に耕作農地及び宅地跡で生育を確認した。				—	—	
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。				—	—	
合計							—

表 8.7-10(13) 注目すべき種の特性及び確認状況（タコノアシ）

種名		タコノアシ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法		—
	環境省RL	NT			宮城県RDB		—
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	・	B	・	C	・		
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州～奄美大島。					
	仙台市内の分布	大倉、蒲生～岡田などでの記録がある。					
	形態	ユキノシタ科タコノアシ属の多年草。茎の地上部は直立し、分枝せず、高さ30～80cm。無毛でふつう淡紅色を帯びる。葉は長さ30～80cm、幅5～12mmとなる。花期は8～10月。花序は長さ4～12cmになり、ごく短い褐色のあらい毛がまばらにはえる。花は長さ4～5mm、全体が黄緑色なのであまり目立たないが、ときに花柱や萼裂片の先端が紫紅色を帯びることもある。					
	生育環境	泥湿地、沼、水田、川原など、水位の変動する場所に多い。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。				—	—	
合計						—	

表 8.7-10(14) 注目すべき種の特性及び確認状況（カシミザクラ）

種名		カシミザクラ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	—			種の保存法		—
	環境省RL	—			宮城県RDB		—
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	・	C	・	・	・	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道・本州・四国・九州。					
	仙台市内の分布	青葉山、葛岡墓苑、台原森林公園、黒森山、野草園、三神峯公園、鈎取山、秋保大滝植物園など。					
	形態	バラ科サクラ属の落葉高木。高さは20mになる。葉柄は長さ15～20mmで開出毛が生え、葉身は倒卵形または倒卵状楕円形、先は尾状に伸びた鋭尖形で、基部は円形まれに心形となり、ややあらい2重鋸歯または単鋸歯があり、鋸歯の先は芒状、または腺状となる。花期は4～5月。花は側枝の葉腋に1～3個ずつ散房状につき、葉と同時に開き、径2.4～3.2cmになる。					
	生育環境	温帯の山地に生育。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（11月）調査時に被災樹林で生育を確認した。				—	—	
②	平成26年度の調査時に生育を確認した。				—	—	
③	平成27年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生育を確認した。				—	—	
合計						—	